

多摩

組報 多摩 6
 発行日 2006年11月1日
 浄土真宗本願寺派
 東京教区 多摩組
 事務所/長専寺内
 東京都調布市富士見町1-35-4
 〒182-0033 042-482-3411
<http://www33.ocn.ne.jp/~tamaso/>



屋根覆いの撤去を待つばかりの本願寺御影堂（写真提供：本願寺出版社）

親鸞聖人七百五十回大遠忌に向けて

多摩組組長 伊東道雄

二〇〇五（平成十七）年一月九日に発
 布されました「親鸞聖人七百五十回大遠
 忌についての消息」について、現在全国
 の各組で「ご消息」披露が実施されてお
 ります。

多摩組では、九月二十八日に築地別院
 において「ご消息」を拝受させていただ
 いたことでもあります。

「世のなか安穩なれ」をスローガンと
 して、この「ご消息」を僧侶・寺族・ご
 門徒様、みんなが、今一度しっかりお読
 みいただき、仏法がひろまり、世の中が
 安穩であることを願われました親鸞聖人
 のおこころをいただいで、ご法要をお迎
 えしたいと思えます。

法要修行期日

2011（平成23）年

- 4月9日（土）～16日（土）
- 5月9日（月）～16日（月）
- 6月9日（木）～16日（木）
- 9月9日（金）～16日（金）
- 10月9日（日）～16日（日）
- 11月9日（木）～16日（木）

2012（平成24）年

- 1月9日（月）～16日（月）

2011（平成23）年7月・8月は、児童・
 青少年を対象とした法要行事を予定。

親鸞聖人750回大遠忌法要長期振興計画の概要

浄土真宗を開かれた親鸞聖人は、1283(弘長2)年に90歳でご往生されました。2012(平成24)年1月16日は、宗祖親鸞聖人の750回忌にあたり、大遠忌法要が修行されます。本願寺では、御影堂の大修復をはじめ法要修行にいたるまで、長期にわたる様々な宗門の『長期振興計画』が策定されています。

【計画期間:2005(平成17)年8月1日～2017年3月31日】

基本的な考え方
コンセプト

『新たな始まり』
～明日の宗門の基盤作り～

2大目標

親鸞聖人750回
大遠忌法要の修行

現代社会に因應する教学・伝道態勢の
構築とみ教えに生きる「人」の育成

15項目の重点項目

親鸞聖人750回大遠忌法要の修行と
記念行事の推進
法要の修行
記念行事の推進
協賛行事

親鸞聖人を偲び、お徳を讃えるために法要の修行と記念行事の実施や記念出版物の刊行を行います。また主要都市部において協賛行事を行い、浄土真宗のみ教えを宗門内外に弘め伝えます。

社会活動の展開

地域社会との交流
現代社会への貢献

地球温暖化問題や環境問題に対応する森林育成事業の検討を進めます。また、ビハーク活動の更なる充実のために、研修・実習施設も兼ね備えた拠点施設の開設に取り組みます。さらに、NGO等の活動にも取り組んでいくための検討を重ねていきます。

教学・伝道の振興

伝道態勢の整備
時代に即応する教学の振興
新たな門徒の誕生(教線の拡充)
国際伝道の推進

教学と伝道の振興は、宗門活動の基礎となるものです。これまでの取り組みを再点検しつつ、時代に即した分かりやすく親しみやすい教学と、悩みに因應する伝道方策確立の取り組み、創意工夫をこらして、新たな門徒の誕生をめざします。同時に新たな法要・儀礼の創設や、仏教音楽の充実をはかります。

次代を担う「人」の育成

人材育成の新規対策
既存の人材育成施策の強化

み教えに生きる人の育成は重要な課題です。人材の発掘と登用を進めるため「人」の総合ネットワークをつくり、宗門活動に参画いただくシステムを整備するとともに、新たな人材育成機関の設置も検討します。また、現代社会の要請に因應えられる僧侶や門徒の育成に取り組みます。さらに、宗教教育の充実や青少年を対象とした新たな方策をすすめます。

寺院活動の推進

寺院の活性化対策
過疎・過密対策

寺院は闍法の道場であり、その地域に根ざした伝道活動を進めるための構想と方策を打ち出します。特に法座活動の充実や社会の要請に因應する取り組みが展開できるよう、地方や都市部などの地域性を十分に考慮した施策をすすめます。

宗務機能の整備・拡充

宗務機能の点検と拡充
境内地等の整備

本願寺境内地および大谷本廟は、その周辺施設を含め、宗教的景観と機能性を重視しながら、整備と拡充を検討していきます。さらに、新たな宗務組織を確立するよう、将来展望等を集約していきます。

大遠忌法要
50年に一度の親鸞聖人の大法要

大遠忌に向けて

延立寺住職 松本智量

「世のなか安穩なれ」

これは言うまでもなく親鸞聖人の御消息（お手紙）の中にある一文ですが、このたび、本願寺派では、五年後に控えた親鸞聖人七百五十回大遠忌の本願寺派のスローガンにこの言葉を頂きました。

念仏をいただくことは即ち、この混濁する世から目を逸らすことなく逃げることなく、確かにここで受け止め、さらにいのちが発揮する方向へ歩み出すことだと親鸞聖人はお示しになりました。

親鸞聖人の時代から時は遙に経ち、文明による便利さは比較しようがない現代にあつて、しかし人が抱く不安とそれによる悲惨は、反比例して拡大さえしているという皮肉な現在を生きているのが私たちです。ここにあつて、「世のなか安穩なれ」というメッセージを発すること、混迷の世をはかなんでいるだけに留まるものではありません。安穩でないこの世を作り出しているのは他ならぬ私自身であることの痛みと責任を担い、歩んでいこうという姿勢表明なのです。

大遠忌にあたり、二〇〇五年一月九日、ご門主から御消息が發布されました。その中の次の一節を重く、受け止めてたく存じます。

「仏教の説く縁起の道理が示すように、地球上のあらゆる生物非生物は密接に繋がりを持っています。ところが今日では、人間中心の考えがいよいよ強まり、一部の人びとの利益追求が極端なまでに拡大され、世界的な格差を生じ、人類のみならず、さまざまな生物の存続が危うくなっています。さらに、急激な社会の変化で、一人ひとりのいのちの根本が揺らいでいるように思われます。私たちは世の流れに惑わされ、自ら迷いの人生を送っていることを忘れがちではないでしょうか。お念仏の人生とは、阿弥陀如来の智慧と慈悲とに照らされ包まれ、いのちあるものが敬い合い支え合って、往生浄土の道を歩むことであります。如来の智慧によって、争いの原因が人間の自己中心性にあることに気付かされ、心豊かに生きることのできる世の中、平和な世界を築くために貢献したいと思えます。」

大遠忌のスローガン

「世のなか安穩なれ」

このスローガンは、五五〇通の一般公募の中から選ばれた作品です。

そのおこころを親鸞聖人のお手紙（御消息）の中に伺いますと、

「往生を不定におぼしめさんひとは、まづわが身の往生をおぼしめして、御念仏候ふべし。わが身の往生一定とおぼしめさんひとは、仏の御恩をおぼしめさんに、御報恩のために御念仏こころにいれて申して、世のなか安穩なれ、仏法ひろまれとおぼしめすべしとぞ、おぼえ候ふ。よくよく御案候ふべし。このほかは別の御はからひあるべしとはおぼえず候ふ。」

「『親鸞聖人御消息』第二五通にある

親鸞聖人より性情房宛の手紙」

とあります。

現代語に意識をしますと、

「浄土に生まれることを不確かと思われる人は、まづわが身の浄土に生まれることをお考えになつて、お念仏申してください。

かならず浄土に生まれることができることを確信される人は、仏のご恩を思われるにつけても、ご報恩のために、お念仏を心に入れて称え、世のなか安穩であるよう、仏のみ教えのひろまるように、とお思いになるのが良いと思われます。

よくよくご思索ください。このほかに別の計らいがあるとは考えておりません。」

といったことができます。しっかりと親鸞聖人のおこころをいただきますしよ。

多摩組竹マーキャンプ in 富士

本年も恒例のサマーキャンプが、静岡県朝霧高原の「ふもとつばら」という、野外活動施設にて開催されました。

参加の小学生は六十五名、スタッフ二十八名の合計九十三名で、本年も大人数での開催となりました。

まず、仙川の明西寺に集合後、作法や歌の練習を行い、開村式。

バス二台に分乗し、バス中では自己紹介をしたり、お釈迦様のビデオを見たりして



朝のお勤め みんな大きな声でお勤めができました。

いるうちに、到着。

昼食後、まずは班に分かれて、班の名前を考えたり、班長さんを決めたり。

午後は、施設のスタッフのお兄さんの案内で、『ふもとつばら探検』。

ここは、江戸時代には金の採れた所だそうで、金の混じった石を探しに行きました。ごく微量ながら、金が混じった石を見つけた子もいました。

さすがに高原だけあって、約二時間の探検でしたが、汗をかかず涼しく楽しめました。

おかげで、夕食のバーベQで子供たちは、焼いているスタッフが休めないほど、もりもり食べていました。

日も暮れてくると、真夏だというのに、寒いくらいで、キャンプファイヤーで歌ったり踊ったり、火を囲むには最適な気候でした。

泊まったのは、男女別の大広間。自然と高学年の子が、低学年の子の布団敷きを手伝ったりして、ぐっすり眠ったようです。

次の日、朝のお勤め。リーダーの子が多いせいか、大きな声でお勤めができて、本当に感心しました。

二日目は、クラフトです。

『アローヘリコプター』という、竹とんぼと、パチンコをあわせたようなものを、宿の方に教わり、広い芝生の広場で、飛ばしました。

大自然の中で、とても楽しく過ごせたのではないだろうか。バスで明西寺へ帰り、閉村式。



クラフト後の記念写真 ここでアローヘリコプターを飛ばしました。

修了証やお土産を受け取り解散となりました。

今年は、何人ものOBが、スタッフとして手伝ってくれました。

一年に一回だけのキャンプではありませんが、子供たちが手を合わせ、感謝の心を少しでも持ち、他の人や、他の命を大切にすることなど、感じたこと、経験したことを、後輩たちに伝えてもらえるようなつながりを、大切にしていきたいものです。

(円城)

仏教壮年会

東京教区仏壮連盟

結成記念日研修会

熱海研修会へのお誘い

明年二月十日～十一日
熱海後楽園ホテル

多摩組仏教壮年会連盟

浄土真宗本願寺派の東京教区には、仏教壮年会のあるお寺が八十四カ寺あります。教区のお寺の総数は四三三カ寺ですから、仏教壮年会のあるお寺の割合は、残念ながら他の教区に比べて低いのですが、それでも、役員をはじめ会員の皆さまの献身的な努力により、活発な活動を続けています。そのなかでも主要な活動の一つが、毎年二月初旬に、一泊二日の日程で開催される「教区仏壮連盟結成記念日研修会」です。東京教区は関東一円、さらに静岡、山梨県までふくめた広い地域から構成されていますから、研修会には、毎年、各地から多彩な経歴をもつ会員が二〇〇名以上集ま

り、会員同士の交流も参加者の楽しみの一つとなっております。

本年度は、我々多摩組の主催で、二月十日より十一日の一泊二日、熱海温泉の後楽園ホテルで開催いたします。

二月の熱海は、有名な熱海梅林の梅が咲き、また市内のMOA美術館では、尾形光琳筆による「紅白梅図屏風」(国宝)や、「樹下美人図」(重文)などの展示が二月だけの期間限定でおこなわれますから、参加者は研修会とあわせてお楽しみいただけることでしょう。

研修会は仏壮連盟が主催ですが、仏教壮年会の会員以外でも、さらに、仏教壮年会のないお寺のご門徒でも参加できます。

最近はお夫婦での参加や、ご婦人がたのグループ参加も増えてきています。

是非、お友達をお誘いあわせて、ご参加いただけますようご案内申し上げます。

申込・詳細は、最寄のお寺のご住職にご相談ください。
(大久保)

テレホン法話

「こころの電話」(築地本願寺)
電話で聞こう3分間法話

03(3541)0282
03(3541)0294

なぜ?なに?

Q&A

不要な念珠や切れた念珠はどうすればいいでしょうか?

念珠といっても、いろんな材質を用いたものがあります。高級なものをあげると、碼磯、珊瑚、水晶などの宝石類です。

これは、たとえ切れたからといってそのまましておくことはなく、仏壇店や念珠店で修理してもらえばいいのです。

また、材質はさほどのものでなくても、亡き人の思い出につながる念珠も、なるだけ修理したいものです。

どうしようか解らない場合には、ご住職にご相談になるのがよろしいでしょう。

しかし、修理するほどの念珠でないものや、不要なものの中にはあるはずで、ではこれらをどうするかといえば、やはり処分するしか仕方がないでしょう。

ただ、念珠はあくまでも法具ですから、そのままポイとゴミ箱に捨てるのではなく、他の生ゴミなどの汚物と混じりあわないように別に新聞紙などで包み、さらにビニールの袋などに包んで廃棄するのがよろしいかと思えます。

仏士の活性化に向けて

仏教壮年会（略して仏壮「ぶつそう」）が活発に動いているお寺は元気がいい。

そのお寺の法座や多摩組の行事などに参加するとよくわかる。ご門徒方がみな楽しそうだ。

お寺参りが楽しいのは、仏法を聞くこと自体の楽しみはもちろんだが、それとともに、利害や社会的立場といった世間のしがらみを抜きにした「法（のり）の友」と会えるからだろ。胸襟を開いてつき合う法友との時間。みな生き生きしているから印象が明るい。

住職と門徒との一対一の関係だけではそうはいかない。その関係がいくら増えて一対多になると元気のいい寺にはならない。「お同行（どうぎょう）」という言葉があるとおり、門徒対門徒、ご門徒同士の関係が深まり広がるのが大事なのだ。仏壮というのは、お寺参りを楽しむ仲間を、ちょっと格好つけて組織化したものと考えていいのではないか。最近そう思いはじめた。

具体的には、お経の勉強会や新聞づくり、他寺のご門徒との交流なんかもいい。まあそこまで大げさにしなくても、軽く酒を飲むのも、日帰りでどこかに出かけるのもいい。とにかく何でもいいが、浄土真宗のご法義を軸とし、お寺を場として、互

いにアイデアを出しあって無理のない活動をすれば、お寺参りがもっと楽しくなるだろう。

仏士の活性化はお寺の活性化とイコールのようだ。遅まきながら、わが寺でも仏壮を作ることになった。

先輩方どうぞよろしく。

（覺證寺 細川真彦）



仏婦役員紹介

東京教区仏教婦人会連盟の多摩組代表の役員をお引き受けいただきました。



横田義子さん
（明西寺門徒）

門徒推進員の誕生

浄土真宗本願寺派教団の方針として定着して二十年、多摩組連続研修第六期・第七期の成果に、ご門徒の中から門徒推進員が生まれました。

京都本願寺のご本尊阿彌陀如来の仏前にお誓い申した感激を、これからの基幹運動推進に期待されています。

（釈忍海）



辻氏



佐藤氏



篠崎氏



荻原氏



麻木氏

住職に聞きました

お寺を訪ねて

玄忠寺（稲城市坂浜）

稲城市は人口七万人で、市内には十カ寺の寺院がありますが、浄土真宗は玄忠寺だけです。

二十三年前に本山の承認を得て、読売カントリークラブの近く、緑の濃い林の点状にする中に、南多摩・稲城市の伝道拠点として建立されました。

五十嵐大策住職は、一九四四（昭和一九）年新潟の長岡に誕生されました。



一九八四（昭和五九）年ハワイでの布教活動に従事され、その後、東京仏教学院で教鞭をとられ、多くの御同朋、御同行を育てられました。

また、宗祖親鸞聖人のみ教えや残された多くの文献を深く研究され、『尊号真像銘文講讃』『本願の研究』『親鸞聖人御消息講読』などを著作されました。

現在は本願寺派司教としてお聖教の研究や、仏教の医療福祉への取り組み、キリスト教やイスラム教との問題、尊厳死の問題等、仏教が直面する諸問題について様々な面から研究をされています。

寺号の玄忠寺は、ご開山親鸞聖人が深く尊崇された七高僧の第三祖・曇鸞大師の住まわれた中国の玄忠寺からの命名です。現在、第三日曜日の常例法座・第四日曜日の真宗講座の月二回の法話会開催をはじめ、お念仏繁盛の為に様々な努力をされており、それが少しずつ良い形になってきているとのこと。

五十嵐大策住職・澄子坊守のご尽力によって、稲城にお念仏の大輪の花が咲きつつあります。お二人の深い知識から生まれる慈味深いお話は、いくらお話を伺ってもつきませんでした。

（石岡、西川）



多摩組第七期連続研修会のご案内

第4回 10月28日（土）
町田市 円成寺にて
講師 本多静芳 師

第5回 12月6日（水）
国立市 應善寺にて
講師 山本豊 師

第6回 3月3日（土）
八王子市 大恩寺にて
講師 石上智康 師

1年間に6回開催される、この連続研修会と、本願寺での中央教修を終了すると、門徒推進員の誕生となります。

多摩組の行事予定

2006(平成18)年
11月11日より築地報恩講
1月9日より本山御正忌報恩講

2007(平成18)年
2月10日～11日
教区仏壯連盟結成記念日研修会
（熱海1泊2日研修会）

婦人会

僧侶研修会

西本願寺(京都・本山)

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町

電話 075(371)5181

FAX 075(351)1211

本願寺築地別院(築地本願寺)・東京教区教務所

〒104-8435 東京都中央区築地3丁目15番1号

築地別院電話 03(3541)1131

教務所電話 03(3541)1666

東京教区多摩組寺院所在地

調布市

光徳寺(こうとくじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-38-27
03(3300)6431 FAX03(5384)3344
(法座:隔月 お問い合わせ下さい)

明西寺(みょうさいじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-43-5
03(3300)1901 FAX03(3300)2681
(法座:10日前後婦人会 1.4.8月壮年会)

延浄寺(えんじょうじ) 〒182-0006
調布市つつじが丘2-30-1
03(3326)7337 FAX03(3326)5037
(法座:毎月29日・第2土曜 門信徒会)

長専寺(ちょうせんじ) 〒182-0033
調布市富士見町1-35-4
042(482)3411 FAX042(498)1105
(法座:不定期)

西照寺(さいしょうじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-39
03(3300)7734 FAX03(3300)7794
(法座:毎月8日・第4土曜 親鸞会)

光西寺(こうさいじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-44-2
03(3300)5054 FAX 同左
(法座:不定期)

光源寺(こうげんじ) 〒182-0006
調布市西つつじが丘2-30-11
03(3300)0881 FAX03(3308)6289
(法座:隔月奇数月 お問い合わせ下さい)

覺證寺(かくしょうじ) 〒182-0033
調布市富士見町1-35-4
042(482)5556 FAX042(480)0166
(法座:第1土曜日)

正善寺(しょうぜんじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-42-5
03(3300)6064 FAX03(3300)6687
(法座:第1日曜日(1日なら8日))

安養寺(あんようじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-44-5
03(3307)5605 FAX03(3307)5496
(法座:第1日曜日)

圓福寺(えんぶくじ) 〒182-0022
調布市国領町1-10-11
042(482)7955 FAX042(481)4734
(法座:不定期)

国立市

應善寺(おうぜんじ) 〒186-0002
国立市東2-2-1
042(572)0043 FAX042(572)0148
(法座:毎月1日・16日)

小平市

照恩寺(しょうおんじ) 〒187-0041
小平市美園町3-23-20
042(341)2935 FAX042(347)4122
(法座:毎月13日・第1土曜・第4土曜)

立川市

光西寺(こうさいじ) 〒190-0021
立川市羽衣町3-20-16
042(522)3413 FAX042(524)7788
(法座:毎週金曜晚 各種仏教講座)

青梅市

浄弘寺(じょうこうじ) 〒198-0036
青梅市河辺町8-19-8
0428(32)1769 FAX0428(32)2010
(法座:第3土曜日)

八王子市

専念寺(せんねんじ) 〒192-0063
八王子市元横山町2-14-24
042(644)3491 FAX042(648)6087
(法座:隔月1回 お問い合わせ下さい)

誓願寺(せいがんじ) 〒193-0816
八王子市大楽寺町209-5
042(651)0073 FAX042(651)6183
(法座:第3木曜日)

光照寺(こうしょうじ) 〒192-0912
八王子市絹ヶ丘3-8-1
042(635)3754 FAX 同左
(法座:不定期)

本光寺(ほんこうじ) 〒192-0832
八王子市散田町4-40-10
042(664)2196 FAX042(663)2501
(法座:不定期 お問い合わせ下さい)

延立寺(えんりゅうじ) 〒193-0802
八王子市犬目町681
042(654)2429 FAX042(654)6930
(法座:第4月曜日)

大恩寺(だいおんじ) 〒193-0943
八王子市寺田町1085
042(668)0889 FAX042(668)1825
(法座:第2土曜・第4日曜・第1土曜(婦人会))

町田市

圓成寺(えんじょうじ) 〒195-0004
町田市鶴間1210
042(795)0181 FAX042(795)0444
(法座:毎月28日)

圓成寺出張所(えんじょうじ) 〒194-0035
町田市忠生3-24-13
042(792)3007
(法座:毎月10日 休日なら翌日)

町田布教所(まちだふきょうじょ)
高源寺(こうげんじ) 〒195-0063
町田市野津田町2534-20
042(737)3236 FAX 同左
(法座:第2土曜・23日前後の平日)

多摩市

阿弥陀寺(あみだじ) 〒206-0013
多摩市桜ヶ丘1-24-2
042(375)8055 FAX042(337)4889
(法座:年3回・毎月28日 明宝会)

稲城市

玄忠寺(げんちゅうじ) 〒206-0822
稲城市坂浜878-6
042(331)3655 FAX042(331)3511
(法座:第3日曜日)

(法座へお出かけの折には、必ず電話にて日時をご確認の上、お出かけ下さい。)